

佐伯藩史料 温故知新録

第 12 集

販売開始

「おんこちしんろく温故知新録」は、江戸時代後期に佐伯藩 9 代藩主・毛利高誠たかのぶが家老の関谷長熙ながひろに命じてまとめた藩政についての史料集です。貴重な古文書こもんじょや日記・記録を収め、佐伯藩の歴史を知るための基本史料といえるものです。

教育委員会では、この「温故知新録」の原文に現代語訳と解説を添えて、『佐伯藩史料 温故知新録』として刊行しています。

このたび、続刊の第 12 集を発行し、販売を開始いたしました。佐伯藩の出来事が詳しく書かれ、佐伯の歴史の新たな一面を明らかにする貴重な史料となっています。

購入は、佐伯市歴史資料館又は教育委員会社会教育課までお越しく下さい。郵送を御希望の場合は、歴史資料館へお問合せください。

○価格… 6, 000 円 (税込み)

○装丁… B5 版 布丸背上製本
箱入り 451 ページ

※第 1～3 集 (完売)

※第 4～11 集 (在庫あり)

《お問合せ》

佐伯市歴史資料館

大分県佐伯市大手町 1 丁目 2 番 25 号

TEL 0972-22-0700

FAX 0972-22-0701

E-mail info@saiki-rekishi.com

URL <http://saiki-rekishi.com/>



【第 12 集の内容】

① 明和日記

佐伯藩の家老や用人などが記した『御用日記』を抜き書きしたと考えられる日記です。明和元年 (1764) から同 9 年 (1772) までの記事を収めています。江戸で育った 8 代藩主・毛利高標が将軍に初めて目見えをし、佐伯に入る計画が立てられるなど、高標が藩主として成長していく姿がうかがえます。

② 知行御折紙写・諸御役神文前書写

江戸後期のさまざまな記録です。藩の役人が職務への専念を誓った文書や、家老が勤務の心得を示した文書からは、藩政を取り巻く複雑な事情が垣間見えます。

また、文化 7 年 (1810) の藩の人口を書いた文書や、キリシタンについて調べた文書などもあり、佐伯の歴史を知る上で興味深い史料です。

③ 御番所御勤番一件書

佐伯藩が幕府から江戸城の門番役を命じられたときの記録集です。文化 13 年 (1816) に門番を勤めた際の記録を中心に、さまざまな事例が書き留められています。幕府と藩の力関係や江戸での佐伯藩の役割がみえてきそうです。

④ 付図：堅田村組中絵図

堅田村は佐伯有数の米どころでしたが、佐伯藩と幕府の領地が混在する複雑な場所でもありました。この絵図ではそのような江戸時代の堅田の様子を一望できます。